



名古屋大須ロータリークラブ

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-OSU WEEKLY REPORT

<本年度クラブ会長方針>

No. 1013



Ever Onward ~いつも前を向いて~

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 小澤 幸男 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 太田 裕 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL <http://www.nagoya-osu.org> E-mail office@nagoya-osu.org

2008-2009年度 R.I. 会長

李 東建 Dong Kurn Lee

Rotary International President

第1188回例会

職業奉仕月間・米山月間

平成20年10月30日(木)

於 名古屋東急ホテル

出席計算数 59名中46名出席

出席率 77・97%

前々回出席率 87・27%

「我等の生業」

指揮者 鬼頭 茂成

ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

受入青少年交換学生

ラウラ・フランチェスカさん

特定非営利活動法人(NPO法人)

アジア日本相互交流センター(ICAN)

代表理事 田口 京子さん

西名古屋分区分大会実行委員長

名古屋瑞穂RC 増田 盛英さん

名古屋瑞穂RC 岩崎 道夫さん



西名古屋分区分大会
2009年2月19日(木)ヒルトン名古屋
講演「日本よ、動き国となれ」
櫻井よしこ氏

ビジター

津島RC 水野 憲雄さん

ニコボックス

本日は2009年2月19日に開催の西名古屋分区分大会のPRにまいりました。

よろしくお願ひ申し上げます。

名古屋瑞穂RC 増田 盛英さん

名古屋瑞穂RC 岩崎 道夫さん

NPO法人ICAN代表理事 田口京子さん

名古屋大須R.C.にようこそ。

渡辺 観永・太田 裕

11月3日に住職拜命雅行行列をします。

ラウラも、グレイス、ミスさんも参加してくれませう。

モテルハウスが11月13日守山区志段味にオープンします。よろしくお願ひします。

妻の誕生日です。吉田 隆彦

妻の誕生日です。小澤 幸男

妻の誕生日です。お花ありがとございまして。岩崎 征一

今月は妻と娘の誕生日でした。近藤宏一郎

結婚月です。渡辺 剛男

川畑さん、前田さん、ありがとございまして。日比野芳丈

挨拶

会長 小澤 幸男

皆さんこんにちは。最高気温が20度を切る日が多くなりました。体に気をつけてください。今日は、私がクラブ奉仕委員会に月に一度は子供に関する卓話をお願いしてましたが、田口京子さんより「子どものこえ」という題でお話しいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、寒くなりましたので私が学生時代にやっていたスポーツのアイスホッケーについて少しお話しします。

昔は時々テレビで放送されていましたが、最近では長野オリンピックの時

とキムタクのドラマ「プライド」が放送されたときくらいしか注目されませんでした。テレビで見られた方はご存知のようにまるで氷上格闘技で、氷の上でケンカをやっているようにしか見えなと思います。見ていてもスピードで、攻守が一瞬に変わりパツクの動きも早すぎて見えないので「ゴルの瞬間も見失うことが多いです。」

今、東海学生アイスホッケーの秋季リーグ戦の最中です、今晚も夜10時から現役の試合ですので港区役所近くの邦和S.Lまで応援に行きます。興味がある方がおいででしたら同行します。ただ終わるのは11時30分位になりますので帰ると午前様です。

また、12月25日7時からレインボウアイスアリーナでアジアリーグの王子製紙と日本製紙のネピアとクリネックスのティッシュペーパー対決があります、入場券手配いたしますので私に申し出てください。

卓話

「子どものこえ」

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター(ICAN)

代表理事 田口 京子さん

ICANは、住んでいる国や地域性別や年齢、病気や障がいのあるなしにかかわらず、全ての人がその価値と尊厳を感じられる社会を目指して、15年間活動を続けている名古屋のNGOです。

フィリピンで医療、保健、教育、生計向上の事業を行う中でICANが学んだことの1つは、「人々がどんな問題を抱え、どんな未来を目指しているかは、そこに住んでいる人が一番よく知っている」ということです。そのため、ICANでは、人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」を基本理念に、住民の人たちとともに悩み、考えながら、それぞれのできること「ICAN」を持ち寄って、事業を続けています。

もう一つは、「子ども達は、弱くて守られるだけの存在ではない、これからの社会をつくっている主人公であり、その力を持っている」ということです。そこでICANでは、子どもたちを主人公にした、ノンフォーマル教育やアドボカシー事業を行っています。

子どもたちが主人公になって、自分の経験を共有する中で、「学校に行く」、「虐待を受けずに生活する」ということなどは、自分の持っている基本的な権利(人権)なのだということに気がきます。また、その権利を奪われていることは、地域や社会の問題であり自分や家族だけで解決しなくても良いことや、地域や社会の中で自分は大切にされるべき存在であることを知ること

で、地域や社会の中で価値や尊厳を感じ、自己肯定感につながります。さらに、人権が尊重されるよりよい社会を目指す仲間ができることで社会を変えていく力になります。

このような事業を続けることで、現地の社会がよりよくなっていくと私たちは信じています。そして、このような活動を世界に広げていくことが、紛争や貧困の少ないよりよい未来に続くと考え、今回の「TULAY PROJ-ECT」を実施しました。



田口 京子さん

1年目の今年は、日本とフィリピンの子ども達で5000枚の絵手紙大会を行いました。両国の子どもたちがうれしい・たのしい瞬間」を絵手紙に表現しました。理想や夢を共有することでその理想を実現するための仲間になって欲しいという願いからです。苦しみや困難の共有は、「かわいそうだから」という一方的なかかわりにつながってしまつことが多いからです。

それぞれの絵手紙は、その地域の生活環境や価値観を反映したものになりました。例えば、フィリピンの子どもたちは「卒業式」や「家族との場面」、「出生時」や「地域のお祭り」などを数多く描きました。これは、卒業することの意味の大きさ、家族関係の豊かさ、宗教観などが現れているように感じます。一方、日本の子どもの絵手紙には「友達のかかわり」や「部活動」「習い事」が数多く描かれています。日本の子どもたちは余暇に多くの楽しみを見出していることが伺えます。

また、両国で行った「宝くじで100万円当たったらどうしますか?」というアンケートで、日本では「自分の欲しいものを買う」、「貯金」、「旅行」などが多かったのに対し、フィリピンでは「家を建てる」、「貧しい人を助ける」、「貯蓄」などが多く、フィリピンの子ども達の方が他者とのつながりを感じさせる結果となりました。どちらが良い、悪いというわけではなく、それぞれの子ども達は、それぞれの地域で懸命に生きていくことには変わりなく、それぞれの地域で子ども達を取り巻く環境が異なるために、このような違いが出ていていると考えています。

例えば、フィリピンでは、衣・食・住も満たされず、学校に通えない場合も多いのですが、行政が頼りないために、地域で助け合わなければ生きていくことができません。そのため、必然的に多くの人のかかわりの中で生きていくと実感しているのではないかと考えます。しかし、助け合いながら困難の中でも生きていく力強さはありますが、それを受け入れてあげられてしまつているために、社会そのものはあまり変わっていきません。

一方日本では、個人が尊重され、行政がしっかりしているために、他者とかかわらなくても生きていくことには事欠かない分、他者のことも行政任せで関心が希薄だと感じます。その上、家庭や地域とのつながりは希薄でとても狭い空間の中のみ限られた人間関係の中で生きています。また、世の中には正解があふれ、失敗やしかられることを極度に恐れているために、一度の失敗でも自信を失い、自己否定や他者否定につながってしまうもろさを感じます。そのため、衣・食・住・教育など生きていくために必要な「もの」は満たされているのですが、困難に出会ったときに生き抜く力は弱いと感じられます。

日本の子ども達も、フィリピンの子ども達と同様に、地域や社会の中で価値や尊敬を感じながら自己肯定感を高めることで、失敗や困難に出会ったときに生き抜く力にもつながり、地域や社会と積極的につながることで、より良い社会構築、より良い自己実現につながるのではないかと思います。そのため、2年目は、フィリピンで

行ってきたノンフォーマル教育やアドボカシー事業のノウハウを活かし、今度はフィリピンの子ども達を日本に呼ぶなどして、日本の子ども達と一緒に、地域や社会、世界と自国のつながりを感じられるようなプログラムを行いたいと考えています。

しかしながら、課題は多く、また実現のメドは立っていません。まず第一にICANの事業地の子ども達がパスポートやビザを取得することが非常に難しく、時間を要することが予想されます。出生届が出されていない、自身売買を疑われたりすることがあるからです。また、財政的にも非常に厳しいのが現状です。成果が目に見えにくい「子ども参加」に関する事業は未だ優先順位が低く、貧困や紛争の削減に結びつくことが理解されにくいものです。さまざまな課題がありますが、日本の子ども達とフィリピンの子ども達と一緒に、より良い未来を目指して活動を続けていきたいと思えます。今回はこのような貴重な機会を頂き、本当にありがとうございます。

■ 受入青少年交換学生挨拶

ラウラ・フランチェスカ



■ 今日の音楽

マイ・フェイヴァリット・シングス/オダシ ティ/標が目にしみるノウイザウト・ユウ

■ チャリティーラン

職業事務員長 松本 哲朗
絶対のスポーツ日和に恵まれ、49組中34位と健闘していただきました。大勢の応援有難うございました。



- 第1走者 松本枝更子さん
- 第2走者 日比野芳文さん
- 第3走者 ラウラ・フランチェスカさん
- 第4走者 渡辺 玄くん
- 第5走者 渡辺 彩加さん
- 第6走者 近藤宏一郎さん



名古屋YMCA 第15回「チャリティーラン2008」
11月1日(土) 於名城公園 名城公園外周路コース

チャリティーランは、参加費で障がいのある子どもたちのプログラムを支援することと同時に、障がいのある人となりが共に走ることににより、「障がい」に対する理解が深まることを目的とした駅伝大会です。

昨年は全国で13のYMCAがチャリティーランを開催し、ランナーやボランティアとして約8千人が参加、3815万円の収益がありました。この収益金は、YMCA国際賛助会(FCS)が行つたチャリティーイベントの収益金とあわせて、全国のYMCAが行つた障がい児プログラムの支援に利用します。



YMCAホームページより http://www.ymcajapan.org/03_05_02.html

11月13日(木) 例会の案内
卓話
「障害のある子供と触れあって」
アーチきくい
管理着者 赤崎倫夫さん

広報委員会
杉本 英夫・木村 光徳
加藤巳千彦・北川 昴邦
佐々木 功